

商店街名：東刈谷商店街協同組合（刈谷市）

キャッチコピー

地域・商店街、まちごと元気プロジェクト

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

東刈谷商店街は、刈谷の東に位置し人口や世帯数も多く、成熟した住宅地。今後は高齢化・単身世帯の増加、地域活動の担い手不足が大きな課題になっている。人口構造の変化がもたらす課題を踏まえ、商店街は「買い物場」から「交流の場」としての需要が増えるとともに、商店街の存在感が増してくると考えられる。



◇商店街の姿

東刈谷商店街の客層は高齢者、地域住民、駅利用者。商店街の役割として、一人暮らしの高齢者等の買い物支援等のほか、防災拠点・地域コミュニティの中心となり、地域とともに育ち生活を支えるコミュニティ商店街となることが重要である。各自治会と連携して夏祭り・盆踊り・秋まつり・防災訓練を継続的に取組み、多世代交流活動を進める。また、東刈谷商店街は買い回りには向かない広域型商店街であり、魅力ある個店の創出・発掘をすることで商店街や地域の活性化を図る。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

東刈谷地区・野田地区は「住工混在の解消と産業用地整備」が形になり、世代交代による住宅の再整備が進む。JR東刈谷駅及び野田新町駅周辺は、日常生活を支える「地域拠点」として、成熟している。高齢者と単身世帯の増加、古い住宅に残る割合が、2035年にはピークになり見守り活動や地域福祉の負担が増加する。又、自動車関連の就業者を中心に外国住民の比率が高まると予想される。



◇商店街の姿

防犯・見守りの主軸、商店街「安心・安全・住みよい街づくり」への転換。「日常の買い出し」の場ではなく「ここにしかない、サービス体験」を提供する商店街となる。お祭り等のイベント継続と企画をアップデートし、多文化共生の架け橋となる。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

- 各地区自治会と積極的にコミュニケーションを積み重ね、自治会や地域のニーズを把握する。
- 子どもから高齢者などの幅広い方が交流・参加できるイベントにて、防災意識の向上及び地域や商店街が活気づく取組を実施する。
- 商店街組合員店舗の魅力やイベント情報等を積極的に発信し、商店街や地域の活性化を図る。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計7名

(2) 地域プラットフォーム

名称：未来へ//まちごと元気プロジェクト

目的：地域・商店街 まちごと元気に！積極的に問題解決、実現する

参画：商店主、地域住民、その他

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

自治会との会談を踏まえ、夏祭り・盆踊り・マルシェ・イベントなど人が集まる地域交流の場としての機能、地域と連携して防災訓練等の活動を実施し、地域全体の取組への強化。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

イベント等の実施による地域交流・コミュニティづくり、自治体と連携した防災イベントの実施や、災害時の情報拠点（SNS）となる。